PANEL 47

公益社団法人　兵庫県建築士会　神戸支部

平成 28 年度事業報告

支部役員
各委員会メンバーリスト
支部長挨拶
総務委員会
研修委員会
青年部会
すまいスクール委員会
企画委員会

平成 29･30 年度神戸支部役員

【支部長】　前川 象二郎

【副支部長】　戎 孝之　久宝 弘幸　佐々木 博司　三島 悦子

【理　　事】　荒川 直樹　上野 和彦　湖亀 一登　佐々木 康行

常峰 博文　寺田 みさと　中村 重陽　野口 直人

前田 さえ　槇本 光展　松村 哲也　毛利 康人

【監　　事】　鎌谷 正士　赤沢 祥語

【顧　　問】　田中 義之

※＿＿＿＿＿は常任理事

平成 29 年度各委員会メンバー

総務委員会

担当副支部長　久宝　弘幸
委員長　　湖亀　一登
副委員長　　松村　哲也
委員　　赤澤　祥語、大塚　正、三島　悦子

研修委員会

担当副支部長　戎　孝之
委員長　　毛利　康人
副委員長　　槇本　光展、前田　さえ
委員　　上野　和彦、上野　光子、大石　雅俊、芝崎　康子、瀬戸口　茂、
　　常峰　博文、中居　博喜、藤原　路弘、安水　正、山下　享子、
　　山本　幸司
オブザーバー　石田　敦、佐々木博司

青年部会

担当副支部長　三島　悦子
部会長　　寺田　みさと
副部会長　　中村　重陽、高麗　憲志
委員　　谷口　成夫、村上　正一郎、幡谷　道子、石田　志野
相談役　　上野　和彦
顧問　　佐伯　亮太

企画委員会

担当副支部長　佐々木　博司
委員長　　荒川 直樹
副委員長　　野口　直人、佐々木　康行
委員　　三島 悦子、山口 悟、戎　孝之、湖亀　一登、中島　健太郎、
　　庄司　純、山口　丈太郎

2017/3/23

（公）兵庫県建築士会神戸支部
支部長　前川象二郎

会員の皆様方には建築士会活動にご支援をたまわり厚くお礼申しあげます。

さて、2016 年度の我々を取り巻く話題はたくさんありました。世界的には、英国のEU離脱、テロ頻発、北朝鮮の脅威、トランプ旋風、等々今までの常識では考えられなかった様な事が起こっています。日本では度重なる災害が発生しました。4 月には熊本地震、10 月には鳥取中部地震、11 月には博多の道路陥没、12 月には糸魚川で大規模火災、などなど、建築の安全・安心をめぐる問題が立て続けに発生した一年でした。また、五輪施設見直しや杭偽装問題、移転延期が 9 月に決まった豊洲市場問題などで建築界に対する社会の目が厳しくなり、いかに建築の安全性を高めていくかが我々建築士に問われております。

一方では、訪日外国人急増、空き家急増といった都市問題を解決しようとする動きも始まってきました。空き家急増の背景には、日本は世帯数を大幅に超えた住宅がすでにあり、空き家が右肩上がりに増えているにもかかわらず、将来世代への深刻な影響を見過ごし、居住地を無差別に広げながら、住宅を大量につくり続ける住宅過剰社会であるという事実があります。7～8 年経つと人口の 5%を占める団塊世代が 75 歳以上となり、後期高齢者の割合が一気に 20%近くにまで膨れ上がり、さらに 7～8 年経つと 3 戸に 1 戸が空き家という将来が待っています。こうなると不動産が「負動産」化して資産としての住宅の有用性が根本から揺らぎ始め、住宅が資産とされたこれまでの時代とは全く異なってくるという事実があります。

住宅過剰社会からの脱却に向けて、私たちは、空き家を減らす、中古住宅の流通を促進する、市場に依存しすぎた新築住宅中心の市場から転換することが不可欠です。すでにある住宅のリノベーションや建て替えをし、住宅の質を市場性を持つレベルに高めたうえで、住宅市場に流通させていくことが必要です。来年からは中古住宅の売買取引の際の重要事項説明書に、インスペクション（建物検査）の有・無を記載するとともに、宅建士がその旨を説明することを義務付けることとなりました。このような状況に対応するためにも、我々建築士が力を合わせて安全・安心も含めた住宅の質の向上に努力する必要があります。建築士会神戸支部では講習会、見学会、セミナー、耐震診断等々を通じて建物の質の向上に寄与するべく努力しております。

最後になりましたが、神戸支部では総務委員会をはじめ、研修委員会、青年部会、企画委員会の各委員会でいろいろな事業活動をしています。来年度も今まで以上に魅力ある事業活動を計画していこうと頑張っておりますので、ぜひご参加ください。これからも皆さんと一緒に力を合わせて神戸支部の活動を盛り上げていきたいのでご協力のほどよろしくお願い致します。

以上

総務委員会

総務委員会では各委員会の事業の調整、年度予算案の作成、会計の他、広報活動としてホームページの運用なども行っています。会員数が少なくなってきておりますが、支部事業が円滑に行える様頑張っていきたいと思いますので、今後ともご理解ご協力の程よろしくお願い致します。

【28 年度通常総会】

会場：神戸市産業振興センター

前川支部長挨拶

総会後の特別講演会

平成28年度「歴史と環境を学ぶ会」の事業報告

7月10日（日）に毎年恒例の「歴史と環境を学ぶ会」を開催しました。

本年度は、徳島県の社寺及び町並みの中から徳島市・鳴門市内の重文を見学し、四国八十八ヶ所の霊場2箇所とその周辺環境との調和を楽しみました。

神戸市役所北側花時計前からバスで出発しました。神戸淡路鳴門自動車道を通って四国へ渡り、午前中は重文の宝庫、丈六寺を見学しました。

宝物館の中でさまざまな重文を拝見したあと、三門前で丈六寺の生い立ちについて講義して頂きました。戦国時代の武将 長宗我部氏に、新海遠江守が騙し討ちされた時の床の血痕が回廊の天井に残されていました。丈六寺は宗教的だけでなく軍事的にも重要視されていたようです。国指定重要文化財の聖観音坐像が修理にだされており、拝見できなかったのが残念です。

石井町へ移動し昼食を終えた後、バスで一宮神社と四国十三番札所の大日寺へ向かいました。一宮神社の本殿は三間社流造で、平成5年に国の重文に指定されています。一宮神社の前には大日寺があり、元々神仏習合の時代には一宮神社と一体化して 阿波国一宮だったようです。

一宮神社 見学後、樹齢約千年余の楠で有名な大麻比古神社へ行きました。この神社は大麻比古大神と猿田彦大神の二柱の神様が祀られています。大麻比古大神は大昔 阿波国を開拓した忌部氏の大祖先の神様で、猿田彦大神は天孫降臨の時 その道案内の役をつとめられた神様です。ご神木の楠は鳴門市の文化財に指定されています。
神社の裏には、第一次世界大戦当時に捕虜生活を過ごしたドイツ兵が、優れた母国の土木技術を生かして造ったドイツ橋があり、今日も日独両国民の架け橋として重要な役割を果たしています。

大麻比古神社 見学後、四国八十八ヶ所霊場の一番札所である霊山寺に行きました。霊山寺は聖武天皇の勅願により行基菩薩が開創され、弘法大師がインドの霊山を和国（日本）に移す意味で「竺和山・霊山寺」と名付けられました。

真夏の暑い中ではありましたが、時間的にもゆとりがあり、皆無事にもどって来れました。天候にも恵まれ、予定通りの見学内容が出来たと思います。最後になりましたが、多くの参加頂いた方々に心から感謝申し上げます。

日時：平成28年7月10日（日） 8：30～18：30

集合：神戸市役所北側花時計前　解散：三宮駅東ラウンドワン前

内容：徳島市・鳴門市内の重文、歴史的文化の跡地とその周辺環境の見学

丈六寺　観音堂・経蔵（旧僧堂）・三門・本堂（元方丈）［重要文化財］

一宮神社　本殿［重要文化財］ ／ 大日寺　第十三番札所

大麻比古神社　大楠［樹齢約千年の楠・鳴門市の天然記念物］

霊山寺　四国八十八カ国一番札所

参加費：会員－5000円 ・ 非会員－6000円

参加人数：会員24名・非会員2名　合計26名

丈六寺　三門

一宮神社

大日寺

大麻比古神社

霊山寺　仁王門

霊山寺　多宝塔

丈六寺　本堂

大麻比古神社　大楠

平成 28 年度第 1 回法規講習会事業報告

（公社）兵庫県建築士会神戸支部研修委員会

（一社）兵庫県建築士事務所協会神戸支部研修部　共催

平成 28 年度第 1 回法規講習会として、神戸市における建築・消防関係の最新の法令等についてご説明をしていただきました。参加者は 74 名でした。

■　**開催日時**：　平成 28 年 7 月 21 日（木）　13：30～17：00

■　**開催場所**：　兵庫県私学会館 302、303 号室

■　**参加者**：　71 名（会員）、3 名（非会員）

■　**受講料**：　建築士会会員・事務所協会会員は 2500 円、会員外 3500 円

講演内容：

①**建築基準法関連告示等の改正について」**（意匠関係）

講師：神戸市住宅都市局建築指導部建築安全課建築安全係長　松添　高次様

②**「神戸市建築物の安全性の確保等に関する条例等の改正について」**

講師：神戸市住宅都市局建築指導部建築安全課指導係長　黒川　正樹　様

③**「建築基準法関連告示等の改正について」**（構造関係）

講師：神戸市住宅都市局建築指導部建築安全課構造担当係長　平井　勝彦様

④**「神戸市耐震改修促進計画〔2016－2020〕について」**

講師：神戸市住宅都市局建築指導部耐震推進課　担当係長　松下　公也　様

⑤**「建築物省エネ法について」**

講師：神戸市住宅都市局建築指導部建築安全課建築環境担当係長　古屋　和昭　様

⑥**「人と自然との共生ゾーンの指定等に関する条例の改正等について」**

講師：神戸市経済観光局農政部計画課地域整備係長　佐藤　大輔　様

⑦**「都心三宮の再整備について」**

講師：神戸市住宅都市局計画部都心三宮再整備課三宮再整備事業推進係長　播摩　正志　様

⑧**「消防法関係の最近の動向について」**

講師：神戸市消防局予防部建築課建築第 2 係長　穂積　満　様

■　**共催**：（社）兵庫県建築士事務所協会神戸支部

研修委員会　建築士会のためのビジネスセミナー　事業報告

“設計事務所・建設会社向けSNSセミナー”

定期的に行われている建築士のためのビジネスセミナーの今年度のセミナーとして、「設計事務所・建設会社向けSNSセミナー」を兵庫県建築士会神戸支部の事務所にて開催しました。こういった、インターネットコミュニケーションをはじめとするスマートフォンを使用したセミナーが行われることはあまり前例がなく、研修委員会を主体とする今までの講習内容からの参加者傾向を考えると10名もの参加者に集まっていただいたことや、初めて研修委員会の事業イベントにご参加いただきた方もおられ、新たな参加層にもアプローチができました。講習の特性とも絡み合い、講師の方との双方向の講習が行われ、勉強会といった雰囲気でセミナーがすすみました。

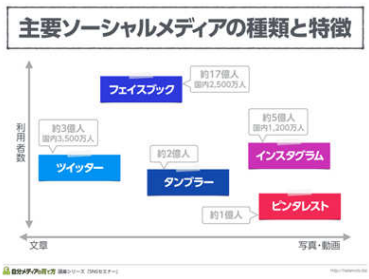
自分のメディアの育て方講座として様々なセミナーを行っている畑本伸一先生は、ご自身のInstagramをはじめとするSNSサービスで、その内容を実践されておられ、今回のセミナーでは現在もっとも、ユーザーが増加しており、アクティブユーザーも多い、“Instagram”をセミナー参加者もスマートフォンを携えて行いました。

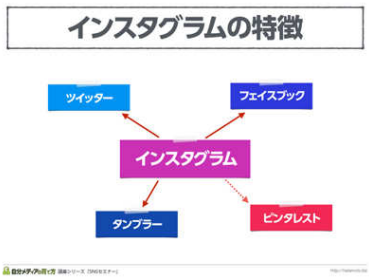
セミナーの序盤では、SNSのネット上ではなく、人と人がつながっていくことの現象をイラストを使用し視覚的に説明していただき、人に情報が集まって、発信されていく“インフルエンサー”をいち早く見つけ、見極めることが必要で、発信力のある人と出会うきっかけ、方法を教えていただいた。また、自分も発信力を高めることで、より高度なメディアをつくるというプロセスが必要だということでした。

各SNSサービスの種類と特徴、また、その違いをご説明頂いたが、前記のように、インターネットサービスには先行者有利の観点からインスタグラムを使用することが良く、時流にあわせたコミュニケーションテクニックが求められることは、技術進歩のスピードは建築業界とのズレや認識の違いがあるのではと思わざるを得ない部分だと感じました。

今回のセミナーでは、以前から何らかのSNSを使用したことのある方を募集前提としていたこともあり、なかなかフォロワーを増えない、いいねが増えないといった方が、なぜ増えないか、なぜ増やせないかが、テクニックや、なぜ発信をするかをシンプルに追及、実践することで、当初は発信力がなくても高めることができ、興味関心つながりの濃いフォロワーを育てることができるという内容を講演頂いた。

途中、質疑の声も断続的に挙がり、さしづめ勉強会のようになったのもテーマならではではないでしょうか。個人的にはブログ、SNS は何のために行うか？というという問いでは、情報拡散のコスト削減のスピード化が実現する、という部分では、営業目的で使用し始めた場合、勘違いして自身の発信力以上の効果が得られる魔法のようなツールと考えがちな部分があるが、結局、現実の人と人とのつながりにおいても必要なモチベーションやスキルが求められるというのも興味深く感じました。ただ、地道な努力、コツによって SNS 上において大きく成長することも可能性の高いアプリ、ツールだと思いました。





当日のセミナーの様子

各グループに分かれ、スマートフォンを片手にセミナーを行いました。

■内容：効果的、効率よく一般の多くの方に自会社の「仕事」をみせることが出来る facebook、Twitter、Instagram、Pinterest、etc の SNS サービス、アプリを使用し、人を通じてアピール、PR する方法を学ぶ。

■実施日：平成 28 年 7 月 27 日（水）

■講習時間：19：00～20：30

■講師：畑本伸一　畑本経営者支援事務所

–集客につながるコミュニケーション設計のプロ–

事業報告シート

事業分野	もの・まち・くらし・その他	作成日	平成28年5月12日
事業名称	公益社団法人　兵庫県建築士会　神戸支部総会　特別講演会		
開催日時	平成28年4月23日（土） 14：30～16：30	開催場所	神戸市産業振興センター
ふりがな	（こうえきしゃだんほうじん）ひょうごけんけんちくしかい　こうべしぶ　せいねんぶかい		
活動団体名	**（公益社団法人）兵庫県建築士会　神戸支部　青年部会**		
事業の目的	広く参加者を募ることにより、建築士会の活動を多くの方へ知っていただく場としたい。 講師については、主に大規模な公共施設を中心に、ワークショップという手法を用いながら市民と共に建築をつくりあげるという設計活動を展開されている建築家・新居千秋（あらい・ちあき）氏を招き、年齢層を問わずに集客し、会員拡大及び活動参加拡大の広報活動の場としたい。また、活躍されている講師の講演を聞くことにより、個々の意識向上につなげる事を目的とする。		
主な事業内容	テーマ；『地域にたったひとつの建築をつくる』 講　師；新居千秋 【講師経歴】 株式会社新居千秋都市建築設計 代表取締役、東京都市大学非常勤講師　他 1948　島根県生まれ 1971　武蔵工業大学工学部建築学科卒業（現、東京都市大学） 1973　ペンシルベニア大学大学院芸術学部建築学科修了 1973　ルイス．Ｉ．カーン建築事務所 1980　新居千秋都市建築設計設立		

参加者	内訳	青年会員	一般会員	会員外	その他	合計
	人数	8	56	17	0	81

建築士の関り	建築士として著名な建築家の選出から始まり、事務所へのオファー、回答を得れるまでの過程を通じ、他の事務所の対応や建築家との関わり方等、日々行う業務に於いても、学ぶべき要素が多い機会と考え、この事業に関わっていきたい。
今後の検討課題	今回の講師については、関西圏での講演数が少ない方を選出したが、参加人数は例年に比べやや少なく、特に学生が少なかったことが残念であった。 講師である新居氏の作品に、関西地方のものが少ないことがあまりなかったこともあるが、インターネットを中心とした広報活動が十分とは言えなかったことも要因だったように思う。また整理券の回収が完全ではなかったため、来年はそのあたりも改善できるようにしたい。
連携・協力組織等	新居千秋都市建築設計

当日の様子

講演はご自身の卒業設計から始まり、修業時代のカーンの言葉、AAスクールで教鞭をとられていた折の様子など、貴重なお話を聞かせていただくことができた。事務所設立後の作品は主に地方都市の公共施設を中心に、ワークショップを重ねて住民の意見をまとめながら、他にはない独自性のある建築を作り上げられている手法を惜しげもなくご披露いただき、大変ためになる講演会であった。

事業担当(計画)者	中村重陽（青年部会）	事業責任者	上野和彦（青年部会・部会長）
事業担当者連絡先		神戸支部所在地	神戸市中央区古湊通1-2-12 古湊ビル2階
事業担当者E-mail		青年部URL	http://www.kobe-kenchikushikai.com/seinen

事業報告シート

事業分野	もの・まち・くらし・その他	作成日	平成27年10月30日
事業名称	建築視察＿浦邸、山本清記念財団会館（旧山本清邸）		
開催日時	平成28年10月15日（土） 4:00～16:30	開催場所	兵庫県西宮市南郷町、結善町
ふりがな	（こうえきしゃだんほうじん）ひょうごけんけんちくしかい　こうべしぶ　せいねんぶかい		
活動団体名	**（公益社団法人）兵庫県建築士会　神戸支部　青年部会**		
事業の目的	竣工から60年が経過した、吉阪隆正氏設計の浦邸の現在の様子を視察し、設計当初の意図と実際の使われ方の違いや経年変化などを検証する。また道路を挟んで向いに建つ旧山本清邸（建築年：昭和13年、設計：岡田孝男）も合わせて見学し、時代に応じた住まい方や地域に与える影響等について考察する。		
主な事業内容	竣工から60年が経過した、吉阪隆正氏設計の浦邸と77年が経過した岡田孝男氏設計の旧山本清邸をNPO阪神文化財建造物研究会代表の山﨑誠氏のご案内のもと、同時に見学する。近接するものの時代背景や建築思想の全く異なる二つの建物の成り立ち等について考察する。浦邸の方は現在もお住まいということで、竣工当時の状況と現在の住まい方の違いや周辺環境の変化などについて、直接お施主さまからもヒアリングを行う。		

参加者	内訳	青年会員	一般会員	会員外	合計
	人数	13	0	1	14

建築士の関り	名作と呼ばれる住宅建築の内外を視察することで、設計者の当初の意図と実際の使われ方の違いや経年変化などを体感することができた。建てられた年代が17年違うだけで建物の成り立ちや使われ方が異なっており、それぞれの良さを感じることができた。浦邸の方は直接お施主さまにお話を伺うことができ、改修をしながらとても大切に済み続けておられる姿勢に感銘を受けた。建物にとってお施主さまに愛されることの大切さについて改めて学ぶことができた。
今後の検討課題	今回は駅に近い場所だったので、アクセスも容易で、比較的余裕を持って見学をすることができたのはよかった。ただ、山本清記念財団会館の入館料を確認できていなかったことと、当日キャンセルがでたことにより、計画時よりも若干支出が多くかかってしまった点は多いに反省しなければいけない。また、当日見学して終わりにするのではなく、その感想などを参加者同士で共有するような懇親会の端があってもいいのではないかという意見がでた。
連携・協力組織等	浦氏、一般財団法人山本清記念財団、NPO阪神文化財建造物研究会 代表　山﨑 誠氏

当日の様子

・浦邸のピロティで奥様のお話を伺う。

・旧山本清邸の外部での集合写真。

事業担当(計画)者	中村重陽(青年部会・委員)	事業責任者	上野和彦（青年部会・部会長）
事業担当者連絡先		神戸支部所在地	神戸市中央区古湊通1-2-12　古湊ビル2階
事業担当者E-mail		青年部URL	http://www.kobe-kenchikushikai.com/seinen

事業報告シート

事業分野	もの・まち・くらし・その他	作成日	平成26年12月13日
事業名称	第28回 建築セミナー		
開催日時	平成28年11月19日（土） 8:00～20:00	開催場所	岐阜県
ふりがな	（こうえきしゃだんほうじん）ひょうごけんけんちくしかい　こうべしぶ　せいねんぶかい		
活動団体名	**（公益社団法人）兵庫県建築士会　神戸支部　青年部会**		
事業の目的	岐阜市に平成27年7月にオープンした伊東豊雄氏設計の複合施設 「みんなの森　ぎふメディアコスモス」（市立中央図書館、市民活動交流センター、多文化交流プラザ等からなる複合施設）、北方町にある北方ハイタウンの視察を主な目的とする。 これらの見学を通じ、建築士としての意識向上、会員交流を図る。		
主な事業内容	【伊東豊雄氏の近作「みんなの森　ぎふメディアコスモス」及び近隣施設の見学】 【建物概要】 ぎふﾒﾃﾞｨｱｺｽﾓｽ　平成27年竣工　敷地面積14,725.39㎡、建築面積 7,363.84 ㎡（本体棟＋付属棟）、延床面積　15,313.04 ㎡（本体棟＋付属棟）、構造 1 階・M2 階　鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造（一部S造） 2 階　S造、木造（梁） 階数 地上2 階　地下1 階、設計　株式会社　伊東豊雄建築設計事務所 岐阜県営住宅　北方ハイタウン　敷地面積34,647㎡ ４人の設計による（S-1（高橋晶子）S-2（ｸﾘｽﾃｨﾝ・ﾎｰﾘｲ）S-3（妹島和代）S-4（ﾏｰｻ・ｼｭﾜﾙﾂ））		

参加者	内訳	青年会員	一般会員	会員外	学生	合計
	人数	5	5	3	5	18

建築士の関り	伊東豊雄氏の近作を通じて、近代建築の在り方を学ぶ。岐阜県営住宅北方ハイタウンは４人の設計士による建物からなる建物で、同じ県営住宅というカテゴリーの中、各テーマによって個性ある建物となっている。竣工から約１０年経って現状がどのように変化しているかを考察する。
今後の検討課題	今回集客を往復はがきで行わず、会報誌にチラシを添付する方法で行った。やはり会報誌に入れている場合では見る人と見ない人がいる事がわかった。ハガキにより単独で案内することの重要性がわかった。
連携・協力組織等	岐阜市 メディアコスモス事業課　広瀬氏　　岐阜県 都市建築部 住宅課公営住宅係 技師 黒田氏

当日の様子

・館内ツアーに参加し、図書館運営上の話など色々と聞くことができた。２階は間仕切りが一切なく一体の空間となっているため一般的な図書館よりも音の問題はあるとの事ですが、幼児・小学生が親子でゆったりと図書に親しんでいる様子が印象的でした。

・ハイタウン北方では、各棟１室ずつ内覧出来た。一般的な県住の間仕切とは大きく異なる個性的な間取りにどのような住み方が可能か？などと参加者と話しながら楽しい時間を過ごせた。また、内覧の際、県公社担当者の管理運営上の話も聞くことが出来た事が勉強になった。

事業担当(計画)者	寺田みさと（青年部会・委員）	事業責任者	上野和彦（青年部会・部会長）
事業担当者連絡先		神戸支部所在地	神戸市中央区古湊通1-2-12　古湊ビル2階
事業担当者E-mail		青年部URL	http://www.kobe-kenchikushikai.com/seinen

事業報告シート

事業分野	もの・まち・くらし・その他	作成日	平成29年2月28日
事業名称	「(仮称)井吹台西町支援学校」現場見学会		
開催日時	平成29年1月28日(土) 13:00～16:00	開催場所	兵庫県神戸市西区
ふりがな	(こうえきしゃだんほうじん)ひょうごけんけんちくしかい　こうべしぶ　せいねんぶかい		
活動団体名	**(公益社団法人)兵庫県建築士会　神戸支部　青年部会**		
事業の目的	神戸市西区に建設中の支援学校「（仮称）井吹台西町支援学校」（平成２９年４月開校）の施工現場見学を主な目的とする。支援学校という用途で延床15,000㎡超の大規模な建物の見学を通じ、建築士としての知識向上を図る。		
主な事業内容	テーマ;「(仮称)井吹台西町支援学校」の現場見学 【建物概要】 (仮称)井吹台西町支援学校　平成29年2月末竣工(施工中)　平成29年4月開校 敷地面積:25,926.71 ㎡　建築面積:10,580.33 ㎡　延床面積:15,607.95 ㎡ 構造規模:鉄筋コンクリート造(一部鉄骨造)地上2階建　設計監理:神戸市住宅都市局　建築技術部　建築課		

参加者	内訳	青年会員	一般会員	会員外	学生	合計
	人数	4	4	1	0	9

建築士の関り	老朽化に伴う養護学校(2校)の統合・移転に伴い、知肢(知的障害部門・肢体不自由部門)併置化の支援学校が整備されることとなった。竣工直前の現場見学を通じて設計意図を確認するとともに、支援学校施設特有の建築計画について見識を深める。
今後の検討課題	・参加者が少なかった。 事業内容の決定、関係者確認を早め、告知に十分な時間をとるべきだった。
連携・協力組織等	㈱明和工務店　建築・土木事業部　工事部　原田氏（現場所長）

当日の様子

・現場事務所にて原田所長から、見学時の注意事項をきいた後、建物概要・施工状況・建物の特色などの説明を受けた。

・建物内外部を見学した。障害によって4棟の部門に分かれ、吹抜けの「スクールストリート」により管理・共用部門とつながれている。

・1，2階を階段・EVだけでなくスロープでも繋いでいる。

事業担当(計画)者	谷口成夫(青年部会・委員)	事業責任者	上野和彦（青年部会・部会長）
事業担当者連絡先		神戸支部所在地	神戸市中央区古湊通1-2-12　古湊ビル２階
事業担当者E-mail		青年部URL	http://www.kobe-kenchikushikai.com/seinen

すまいスクール委員会

事業報告　「芦屋のモダン建築と新緑の街並みをめぐる　建築たうんウォッチング」

平成 11 年から行ってきた継続事業、まち歩きを通して建築士と交流しながら建築への理解を深めていただく市民参加の事業です。建築士会の活動をより広く一般市民へＰＲすると共に、建築士をより身近に感じてもらうために、委員及び専門家が共同で講師及び案内人として共に歩き建物や街並みの見方と見所を解説し建築に親しんでもらうことを目的としています。

今回は,昨年度中止になった計画を参加費を見直して実施しました。コースは阪急神戸線以南、芦屋市の芦屋川沿いと神戸市東灘区の深江文化村周辺に点在する優れた建物等を見学し、街並みを散策することで、良い建物とはどのようなものか、また、街並みを構成する建物や塀、自然や空間を感じていただき、参加者の生活の場で暮らしに生かせるヒントしていただきたいと考えました。季候もよく楽しんでいただけました。

□　参加者のコメント

普段入れない所にはいれたり、知らなかった建物などの見どころも解説していただけて良かった。

一人ではなかなか見学できないので、有意義な５時間でした。

（担当：瀬戸口,木山、金岡、佐々木、長谷川）

住まいスクール委員会事業報告

子供たちの柔らかな創造力に拍手の“驚き・発見！ねん土でつくろう夢の家”

８月６日（土）午後、当委員会事業の三本柱の一つで夏休みの恒例企画となった親子事業が開催されました。当日は参加者が昨年より少なかったのが残念でしたが、その分、ゆったりと落着いて工作に取り組むことができたようで、参加者には好評でした。親子が一緒になって「モノづくりの楽しさと、建築に興味をもつキッカケになってほしい」との委員会の想いを感じ取ることができ、参加スタッフにとっても楽しい充実の一日となりました。

◆ 展示物で学ぶ人の住まいの始まり

事業は人の住まいの事前学習として､会場となった神戸市埋蔵文化財センターさんのご協力を得て、神戸の地で発掘された埴輪や復元住居のなどの展示物の見学でスタート。学芸員さんから「人の住まいの始まり」について解説いただきました。神戸の地で発掘された本物の歴史遺産を目の前にしての分かりやすい話に、子ども達のみならず同伴の親御さんたちも熱心に聞き入り、親子そろってのまたとない学習の時間となったようでした。

◆ 世界の楽しい家いろいろ

ここからが当委員会の出番。子供たちの「夢の家工作」のヒントにしてほしいと、スタッフ講師が、世界から集めたいろんな住居をパワーポイントで紹介。人の家づくりの参考となった「生き物の住まい」、「世界の伝統的住宅」の他、近年の「ユニークで楽しいお家」の実例をクイズを交えながら解説。中にはこんな家が本当にあるの？といった変わった家の出現に熱心に見入っている姿が印象的でした。この紹介で子供たちに建物づくりに興味を持たせることが出来たのか、聞きとることはできなかったが、子ども達のスライドを見る目に少し希望を持った時間でした。

2010 年

2013 年

2016 年

◆ 「夢の家」作品発表にアッパレ！

頭の中の夢の家を「絵」にした設計図づくりでは、今年もまた、短時間に描き上げる子供達に感心しきりとなりました。本番の粘土工作では今回は使用材料を粘土のみとし、家の原型づくりに重点を置いたことで何時も増してシンプルながらユニークな作品が目立ったのは収穫でした。また、成果発表の場面では、一人一人が自分の声で完成作品のワンポイント紹介をしてくれたことで、彼らの「夢の家」の理解につなぐことができたことに「アッパレ」をあげたい自分がいました。親子が仲良くモノづくりに取り組んでいる微笑ましい風景に心満たされた一日でした。

この企画はすまいるネットさんの支援を受け、またとない社会貢献事業の機会として大事に取組んできた事業です。今後の企画は青年部会に引き継ぐこととなりましたが、これまでの枠に留まらない新風を吹き込んでいただけたらと、希望とエールを送って報告を終えます。（M. K記）

住まいスクール委員会事業報告　歴史遺産・旧ムーア邸の魅力探究

当事業は「建築士と考える住まいスクール」の一環として、一般市民を対象に、優れた建築物の見学と学習を通して建築への理解を深め、合わせて建築士がより身近な存在となることを目的としているものです。今回は、北野町の非公開異人館「旧ムーア邸」 を対象に、まち歩きと意見交換を通して「古建築の新たな活用展開」につなぎたいとの思いで企画したものです。寒さ厳しい時期での開催で、心配していた定員割れもなく集まった参加者の顔を見、安堵の内に事業をスタートしました。

◆ 住宅地北野の生活感に接した路地歩き

集合場所の北野町広場に集まった参加者は、隣接する「萌黄の館」を皮切りに、「旧モロゾフ邸」「T邸」「旧ハンセル邸」「旧フロインドリーフ邸」などの伝統的建造物の巡る路地歩きでスタート。当委員会委員・木山による外観の色、住まいの維持・活用の多様性など、異人館の様々な再生活用の現状を話題にしたガイドに耳を傾け、路地歩きを楽しみました。表通りの喧騒が嘘のように静かで生活感のにじみ出た裏通りの表情に、北野の知らない一面を見ることができて良かったとの声をいただき、今回のメイン会場である「旧ムーア邸」に向かいました。

◆ 歴史遺産・旧ムーア邸の託す熱い想い

「旧ムーア邸」では、この建物の持ち主で当委員会協力委員の山際洋子氏を講師に迎え、この建物を所有するに至った経緯と異人館に託す想いを語っていただき、改修工事中の建物を拝見しました。歴史的遺産が無くなる！との危機に「何としてでも残したい」との強い想いと、展示物としてではなく生活のにおいのする「普段使いの異人館」として生きた活用をしたい、との熱い声は説得力があり感動的で、暖房のない寒い中にもかかわらず皆さん熱心に聞き入っていました。

◆ 旧ムーア邸の今後の活用を考える

内覧後、参加者の皆さんから「ムーア邸の魅力空間・しつらえ」「今後の活用提案」についての意見メモを出していただき、その声をもとに意見交換を行ないました。講師の話しにも出ていた「民泊」をはじめ、「歴史的建築の魅力を伝える展示空間に」や「建築士会の事務所にしては？」など建築士会にとっても魅力的な提案が出されていました。今回のスクールの締めとして、これらの参加者の声を当事業の成果として講師にお渡し閉会しました。

◆ 住まいスクール委員会最後の企画となった事業を終えて

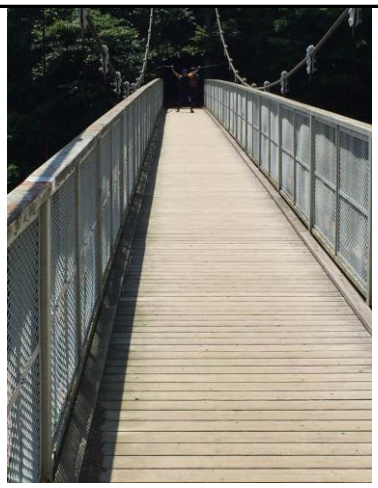
平成 13 年度にスタートした「建築士と考えるすまいスクール事業」を推進してきた当委員会は、今年度をもって閉じることになりました。委員持寄りの発案で企画から講師役まで、全て委員会スタッフの手勉強手づくりで行う当委員会独自のスタイルは今日まで引き継がれ、今回もたくさんの方々から「参加してよかった、ありがとう」「今後も継続してほしい」との声をいただきました。毎度参加者の数を気にしながらの開催は結構きついものでしたが、この参加者からのお礼の言葉は、私自身の励みと力となり育てていただいたことに感謝しつつ会場を後にしました。（M. K記）

事業報告シート

事業分野	もの・まち・くらし・その他	作成日	平成28年5月16日
事業名称	**第2回六甲縦走（須磨浦公園～摩耶山）**		
開催日時	平成28年5月15日（日）	開催場所	六甲山
ふりがな	（こうえきしゃだんほうじん）ひょうごけんけんちくしかい　こうべしぶ　きかくいいんかい		
活動団体名	**（公益社団法人）兵庫県建築士会　神戸支部　企画委員会**		
事業の目的	参加型事業計画の推進		
主な事業内容	六甲縦走の前半のコースを登山することで士会員の健康増進を図る 7:00　JR須磨駅集合 7:30　須磨浦公園より六甲縦走コースに入り　スタート 鉢伏山　鉄拐山　高倉台　梶尾山　横尾山へとすすむ。 高倉台のあたりから、参加者の体力差により、2グループに分かれる。 高取山　鵯越駅　菊水山　鍋蓋山　市ヶ原　摩耶山へと進みゴール 最終3グループに別れ、第1グループは14時ころ、第2グループは16時ころ　に摩耶山に到着 第３グループは時間切れで布引で下山、最後に六甲駅周辺でおちあい、打ち上げをしました。		
今回の事業を振り返って	天気にも恵まれ、絶好の登山日和でしたが、予想通り、かなりしんどいコースでした。 予定通り、走破できた人、出来なかった人と出ましたが、怪我なく一日を過ごせました。 参加者からは、こんなにきついと思わなかったけど、すごい楽しかったという言葉をいただき 大変、有意義な一日となりました。		

参加予定者	内訳	企画会員	一般会員	会員外	その他	合計
	人数	3	2	4	0	9

検討課題	体力差がでる企画の場合、人数がふえた場合の事業の進め方を検討しなければと思いました。

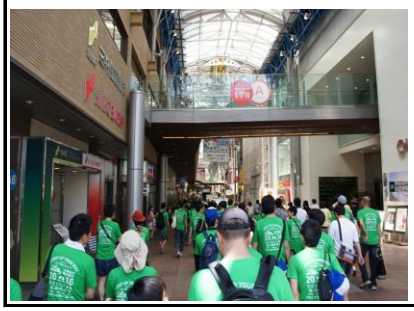


事業報告シート			
事業分野	もの・まち・くらし・その他	作成日	平成28年7月10日
事業名称	チャイルドケモハウスチャリティウォーク2016		
開催日時	平成28年6月18日土曜日	開催場所	三宮～ハーバーランド
ふりがな	ひょうごけんけんちくしかい　こうべしぶ　きかくいいんかい		
活動団体名	**兵庫県建築士会　神戸支部　企画委員会**		
事業の目的	企画委員会では以前にチャイルドケモハウスの建物見学をするチャンスが有りました。それに参加した際、参加者が一様に何か出来ることはないのか（大金の募金以外で）と感じたものでした。その思いを実行する為、このチャリティウォークに参加しました。		
主な事業内容	「チャイルド・ケモ・ハウス　チャリティウォーク2016」に参加しました 今年で数えること4回目になる本イベント（参加者850名）は「がんになっても笑顔で育つ！」をスローガンに、小児がんの子どもと家族を応援するためのチャリティイベントです。東遊園地（パフォーマンス広場）をスタートとし、センター街、南京街、メリケンパーク、ハーバーランドなどの神戸の名所を巡るコースで、楽しく歩きながら、小児がんの啓発及びチャリティに参加しました。 ゲストに元シンクロナイズドスイミング銅メダリスト奥野史子さん、MBSの高井美紀さんも参加されていました。 ウォーク終了後、ゴール地点でKIITOマルシェも開催されており、そこで食事をして解散しました。		
今回の事業を振り返って	晴天に恵まれ、大変暑い一日でした。日焼けもしましたが、このチャリティウォークに参加させていただく事で、少しでもがばっている子供さんやご家族の支えになれればと思いながら歩きました。 このウォーキングコースは大変良くできていて、地方の方々が神戸観光を兼ねてされても、楽しい時間になるのではと感じました。		

参加者	内訳	企画委員	一般会員	非会員			合計
	人数	3	0	2			5

検討事項	来年からは事前に申し込み方法や日程を確認し、この指とまれのメンバー以外への告知を行い少しでもチャイケモの認知度UPに努めたいです

ウォーク中



ゴール

事業報告シート

事業分野	もの・まち・くらし・その他	作成日	平成28年7月10日
事業名称	神戸支部懇親BBQ		
開催日時	平成28年7月9日（土）	開催場所	ブリッジテラス大蔵
ふりがな	（こうえきしゃだんほうじん）ひょうごけんけんちくしかい　こうべしぶ　きかくいいんかい		
活動団体名	**（公益社団法人）兵庫県建築士会　神戸支部　企画委員会**		
事業の目的	神戸支部会員の懇親を深め、絆を強める。		
主な事業内容	ブリッジテラス大蔵において、神戸支部懇親BBQ開催 18:00　ブリッジテラス大蔵で現地集合 18:00～21：00　BBQとビールで懇親会。 会費2,800　で　炭と食材は、会場に用意していただき、 各自好きな飲み物、おつまみを持ち込み　時間いっぱい、きれいな夜景を堪能しながら 時間いっぱい　楽しみました。		
今回の事業を振り返って	テントの屋根があるので、多少の雨でも大丈夫と思ってましたが、あいにくその日の天気予報は、日中大雨。開催を悩みましたが、何とか天気も夕方には持ち直し、逆に少し涼しいくらいでBBQを楽しめました。		

参加予定者	内訳	企画会員	一般会員	会員外	その他	合計
	人数	4	7		0	11

検討課題	参加メンバーが、同じ人にかたっよっているため、 より多くの会員の方が参加しやすい、懇親会の企画が必要と思いました。

事業報告シート

事業分野	もの・まち・くらし・その他	作成日	平成28年9月20日
事業名称	24時間リレーマラソン		
開催日時	平成28年9月17日（土）～18日（日）	開催場所	兵庫県立三木総合防災公園内
ふりがな	ひょうごけんけんちくしかい　こうべしぶ　きかくいいんかい		
活動団体名	**兵庫県建築士会　神戸支部　企画委員会**		
事業の目的	健康増進　体力強化　絆を高める　心を鍛える		
主な事業内容	第9回記念　三木総合防災公園24時間リレーマラソン大会　参加 １８日午前8時半ごろに場所取り班が到着 その他、食事準備班など順に到着 １８日午前１１時半から説明、準備体操、会長挨拶など １８日午後0時スタート 参加者、順位が激しく入れ替わり １９日午前１１時　目標の300kmが非常に厳しい状況 １９日午後0時ギリギリで300kmを見事達成 19日午後0時半表彰式 19日午後1時半片付けを終え解散		
今回の事業を振り返って	今年で3回目となる24時間リレーマラソン、遂に念願の第一位となりました。ノーリツなどの強豪チームを抑えての優勝です。また、もう一つの目標であった走行距離300kmも達成でき、つらい時間帯も有りましたが、チームみんなで助け合い残せた結果に大満足でした		

参加者	内訳	企画委員	一般会員	非会員			合計
	人数	3	1	9			13

検討事項	来年参加の場合はお好み焼きは中止して、容易に作れるものに変更しても良いのではと感じました

平成28年度　企画委員会事業報告

事業名：日本の都市の庶民文化**京町家を知る**

この事業の目的

町家は、地域の風土や歴史、人々の暮らしを物語る地域の文化として、身近に存在しています。
現代住宅とは材料や工法等が異なる、京都や地方の一部の保存地区に残された古い建物–としてではなく、日本の地域に根ざした住まいを知ることをテーマに、まずは、古都京都に現存する町家（京町家）を体感し、自国の住文化の知識を深めることとしました。

概要

日　　時：平成28年11月26日　13:00～16:00頃
対　　象：建築士及び一般市民
募集人員：20名（先着順）
講　師　：秦　めぐみ氏（秦家住宅居住）
　　杉本　歌子氏（奈良屋記念杉本家保存会学芸部長）
場　　所：京都市下京区周辺
参 加 費：2500円（見学料として）

実施内容報告

参 加 者：21名　建築士17名（兵庫県建築士会会員10名）、その他4名

京町家について

庶民の住居である民家は、農村における農家と都市における町家に大別されます。
町家と言っても定義はさまざまで、実は統一された見解はありませんが、その外壁は通りに面し、隣の建物と近接し、軒を連ねて高密度に住む都市住宅という特徴をもっています。
京都における町家の始まりは、平安時代。江戸時代に入って、生活が豊かになると、建築技術の合理化、規格化が進み、華奢で洗練された今日の京町家ができあがりました。

その京町家を知る上で、最もふさわしい２件をピックアップしました。

１件は**秦家住宅**（京都市登録有形文化財）。
１階店舗部表に平格子・出格子窓、二階にむしこ窓を設け、大屋根及び通り庇には屋根面にわずかにむくりを付け、軒先きは一文字瓦を葺く、典型的な京町家の表構えとなっています。
建物がある地域は、ほとんどの家屋が元治元年（1864）におこった元治の戦いによって焼失しました。現在の建物は明治２年（1869）に上棟されたものです。
家業は薬種業。江戸時代中期、元禄１３年（1700）に創業し、昭和61年（1986）まで12代、小児薬「竒應丸」の製造をしてきた商家です。
また、祇園祭の際には、「太子山」のお飾り所となっています。

もう１件は**杉本家住宅**（国重要文化財及庭園国名勝指定）。
こちらも元治の大火後に再建され、6代目当主により明治3年（1870）に上棟された大型表屋造り町家（京都市最大級）です。
京都の中心部にありながら、江戸以来の大店の構えをよく伝え、表屋造りによる大規模な町家構成の典型を示しており、 建造物全体にわたって江戸時代に熟成された京大工の技量が遺憾なく発揮され、技術性・意匠性ともに優れたものであります。
寛保3年（1743）、烏丸四条下ルで呉服商を創業。現在地に本店を構えて京呉服を仕入れ、支店を千葉県の佐原・佐倉に設けて販売を行う「他国店持京商人」でした。
祇園祭の際には、店舗棟が「伯牙山」のお飾り所に使用されています。

まず、最初に秦家に伺い、秦めぐみさん（現在も居住中）にご案内いただきました。
大戸をくぐり、ミセニワを抜けて玄関より上がり、ミセ→茶の間→中の間→座敷→ハナレの順に一通り見学後、座敷にてお茶をいただきながら、秦さんに、町家での暮らしやそれに対する現在の思いなどをお話いただきました。
水はねを気にせず使え、野菜の保存にも適した走りニワ（土間の台所）、障子越しに日差しの強さや長さ、訪れる鳥の気配などを感じる座敷など、現代の住居では得にくいことが、秦さんにとっては、特別ではなく、日々過ごすに十分な暮らしであるとお聞きし、羨ましく感じました。

その後、杉本家住宅へ移動。こちらは、現在は奈良屋記念杉本家保存会で管理運営されています。
講師は、杉本家９代目の三女で保存会学芸部長でもある杉本歌子さん。
職人技が光るハシリニワ上部の火袋や座敷庭、特徴的な仏間及仏間庭、薮内節庵好みの茶の間・露地庭など、見どころ満載の建物ですが、かつて生活されていた杉本さんならではの詳細なお話を聞くことで、一見しただけではわからない、真っ平らに仕上げられた座敷の砂摺壁や海をイメージして造られた仏間庭、建具の精巧さなど、当時の職人の技術の高さ、施主の感性を肌で感じることができました。

最後に、町家に親しんでいただこうと、京町家クイズを行い終了としました。

その後、直接杉本さんに質問等を行ったり、オリジナルグッズを購入する参加者もあり、楽しんでいただけたようです。

＜当日の様子＞

今回の見学会では、京町家は、自然と付き合い、自然を暮らしに取り込む工夫に富んでいること、そしてそれらが日々の生活にリズム感や潤い、けじめ等をもたらしていることを学びました。この自然との豊かなかかわりが、西陣織や京友禅等の美しい色、柄等を創造する美意識を培い、産業や芸術にも大きな影響を与えてきたと考えられます。
自然を遮断するためのもので覆われた家での暮らしから、どのような感性が育まれるのでしょう。
現代の都市住宅に暮らす私たちが豊かに暮らすヒントになることを期待したいと思います。

三島